



# 2023年2月期第2四半期決算説明資料

株式会社ジェイグループホールディングス  
(3063)  
2022年10月26日



# 会社概要



会社名	株式会社ジェイグループホールディングス
本社所在地	名古屋市中区栄三丁目4番28号
設立	1997年3月3日
代表者	新田二郎(代表取締役会長) 中川晃成(代表取締役社長)
資本金	50百万円(2022年2月末日現在)
従業員数	グループ計1,189名 ※内正社員数427名(2022年2月末日現在)

## 飲食サービス業を中心に関連事業を展開

当社グループは食文化を主軸とした総合サービス企業を目指し、フードサービスを中心に飲食事業、不動産事業、ブライダル事業、およびその他関連事業を展開しております。



- 株式会社ジェイプロジェクト  
株式会社ジェイブライダル  
株式会社ジェイフィールド  
株式会社ボカディレクション  
株式会社かわ屋インターナショナル  
株式会社かわ屋東京  
株式会社ジェイアセット  
株式会社ジェイキャスト  
NEW FIELD NEW YORK.LLC.  
KAKEHASHI S.L.U.

※アウトドア事業はセグメント別業績では飲食事業に含まれております。

# 目次



## 1. 連結決算概要

業績の概要	5
連結貸借対照表概要	6
連結キャッシュ・フロー計算書概要	7
セグメント別業績概要	8
店舗の営業状況	9
既存店収益状況	10
既存店コロナ前比	11
店舗数の推移	12

## 2. トピックス

店舗ポートフォリオの改善	14
店舗ポートフォリオの改善進捗	15
新業態の展開	16
ブランド業態のFCビジネス	17
高速道路SA事業	18
原価高騰に対する対策	19
資産の流動化と事業の整理	20
今期の業績見通し	21
株主還元について	22
創業25周年記念株主優待の実施及び 利用制限の撤廃について	23



寿司と串とわたくし 名古屋栄店



芋蔵 銀座店

## 1. 連結決算概要



## 業績の概要



売上高:3,582百万円、営業損失:670百万円、四半期純損失:166百万円

まん延防止等重点措置の解除により、連結売上高は前年対比254.2%へ増加。飲食事業単体では、通常営業ができる店舗が前年より大幅に増えたことにより、売上高前年比は282.7%となる。尚、継続しているコスト抑制策と時短要請協力金等の助成金により四半期純損失は166百万円に圧縮。

	2022年2月期 第2四半期		2023年2月期 第2四半期		前年同期比 (%)
	実績	構成比 (%)	実績	構成比 (%)	
売上高	1,409	100.0	3,582 ①	100.0	254.2
売上原価	593	42.1	1,271	35.5	214.3
売上総利益	816	57.9	2,310	64.5	283.1
販売管理費	1,866	132.4	2,980	83.2	159.7
営業損失(△)	△1,050	-	△670	-	-
営業外収益	92	6.6	118 ②	3.3	128.0
営業外費用	133	9.5	60	1.7	45.3
経常損失(△)	△1,091	-	△612	-	-
特別利益	1,519	107.9	644 ③	18.0	42.4
特別損失	834	59.2	191 ④	5.3	22.9
税金等調整前四半期純損失(△)	△406	-	△158	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△310	-	△166	-	-

- ① 2022年4月以降まん延防止等重点措置の解除により連結売上高は前年対比254.2%へ増加。飲食事業単体では営業再開したことにより前年対比売上高282.7%となる。
- ② 金利スワップ評価益50百万円。為替差益41百万円。
- ③ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の取組として実施した臨時休業に伴う時短要請協力金等の助成金626百万円特別利益に計上。
- ④ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の取組として、店舗の臨時休業や営業時間短縮等の対応に起因する費用及び損失等109百万円を特別損失に計上。(コロナ特損)

5

当グループは、不動産開発に伴う長期借入金において、支払金利を固定化し金利上昇のリスクをヘッジするために金利スワップ契約を締結しておりますが、洗い替えによる金利スワップ評価益として、第2四半期に50百万円を計上しております。

なお、金利スワップ評価損益は、キャッシュフローの動きの伴わない期末日時点の時価評価であり、会計処理は、前期末日時点に計上された評価損益を当期に洗替処理して計上していません。

## 連結貸借対照表概要



(百万円)

	2022年2月期 期末	2023年2月期 第2四半期		2022年2月期 期末	2023年2月期 第2四半期
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>	2,927	2,397 <sup>1</sup>	<b>流動負債</b>	3,084	2,451
現金及び預金	2,259	1,489	買掛金	70	224
売掛金	92	240	短期借入金 ※1	1,172	612
棚卸資産	94	105	その他	1,841	1,614
未収入金	220	410	<b>固定負債</b>	6,767	6,415
その他	295	151	長期借入金 ※2	5,779	5,482
貸倒引当金	△34	-	その他	988	932
<b>固定資産</b>	7,811	7,515	<b>負債合計</b>	9,852	8,867 <sup>3</sup>
<b>有形固定資産</b>	6,299	6,110	<b>純資産の部</b>		
建物及び構築物	2,379	2,243	株主資本	881	1,078 <sup>4</sup>
土地	3,620	3,620	資本金	50	236
その他	298	245	資本剰余金	4,397	4,584
<b>無形固定資産</b>	389	358	利益剰余金	△3,489	△3,666
投資その他の資産	1,122	1,046 <sup>2</sup>	自己株式	△76	△76
繰延資産	4	1	その他の包括利益累計額	△16	△65
<b>資産合計</b>	10,743	9,915	新株予約権	-	5
			非支配株主持分	26	29
			<b>純資産合計</b>	891	1,047
			<b>負債純資産合計</b>	10,743	9,915

<sup>1</sup> 借入金の返済などにより現金及び預金が769百万円減少。休業協力金などにより未収入金が190百万円増加。

<sup>2</sup> 店舗撤退等に伴い差入保証金が78百万円減少。

<sup>3</sup> 銀行借入の調達および返済により、短期借入金、長期借入金が856百万円減少。

<sup>4</sup> 新株予約権の行使により、資本金及び資本準備金がそれぞれ186百万円増加

※1：一年以内返済予定長期借入金を含む

※2：資本性劣後ローンを含む

6

2022年5月11日に第三者割当による第2回新株予約権（行使価額修正条項及び停止要請条項付）の発行をしており、新株予約権行使により資本金および資本剰余金が増加しております。

今期は上半期に10店舗の店舗閉鎖を実施しております。それにより、差入保証金は78百万円減少しております。



## 連結キャッシュ・フロー計算書概要



(百万円)

	2022年2月期 第2四半期	2023年2月期 第2四半期	ポイント
営業活動によるキャッシュ・フロー	△526	△301	税金等調整前四半期純損失158百万円 減価償却費164百万円、減損損失16百万円、 のれん償却額14百万円、助成金収入△626百 万円、助成金の受取額427百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,029	20	不動産事業における有形固定資産の取得及び 新規出店・リニューアルに伴う支出70百万円、差 入れ保証金の回収による収入83百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	△81	△497	短期借入金の減額500百万円、長期借入金返済 による支出353百万円 新株予約権の行使による 収入369百万円
現金及び現金同等物の増減額	△1,635	△770	
現金及び現金同等物の期首残高	2,313	2,249	
現金及び現金同等物の四半期末残高	677	1,478	

7

投資活動によるキャッシュ・フローについては、2022年2月期第2四半期には固定資産の購入があり一旦増加しましたが、2023年2月期第2四半期は、出店、リニューアルを抑制したことにより減少いたしました。

## セグメント別業績概況



### <飲食事業>

2022年3月21日に、まん延防止等重点措置が解除され通常営業となったことに伴い、売上高は**前年対比282.7%**。

### <不動産事業>

テナントビル「EXIT NISHIKI」や「ジェイテル名駅」など賃貸**収入**が安定的な収益となっているため、前年同期比104.6%。

### <ブライダル事業>

婚礼施工組数や受注件数に一定の回復が見られたため婚礼施工前年同期比で売上高160.4%。

### <その他の事業>

前期8月より新規事業として開始した人材派遣事業、2022年2月より開始したサウナ事業などにより前年同期比売上高260.4%へ大幅に増加。

(百万円)

		2022年2月期 第2四半期	2023年2月期 第2四半期	前年同期差額	前年同期比 (%)
飲食事業 居酒屋、レストラン等での 飲食サービスの提供	売上高	1,134	3,205	2,071	282.7
	セグメント損失(△)	△704	△390	314	-
不動産事業 不動産の賃貸・管理業務等	売上高	720	753	33	104.6
	セグメント利益	69	96	27	139.1
ブライダル事業 挙式・披露宴サービスの提供	売上高	97	156	59	160.4
	セグメント損失(△)	△24	△42	△18	-
その他の事業 卸売業、人材派遣業等	売上高	49	128	79	260.4
	セグメント損失(△)	△3	△93	△90	-
調整額	売上高	△592	△662	70	-
	セグメント損失(△)	△386	△240	146	-
合計	売上高	1,409	3,582	2,173	254.2
	セグメント損失(△)	△1,050	△670	380	-

8

飲食事業につきましては、2022年2月期第2四半期は、緊急事態宣言等により、通常営業ができない店舗が多かったが、2023年2月期は2022年3月21日にまん延防止等重点措置が解除された以降は通常営業に戻り順調に回復しておりましたが、第7波の影響が7月より影響があったものの、前年同期比282.7%となりました。

ブライダル事業については、婚礼件数が前期より改善している影響から前年同期比160.4%となっています。

不動産事業につきましては、テナントビルの賃料収入が安定的な収益となっているため、前年同期比104.6%となっています。

その他の事業につきましては、人材派遣事業とサウナ事業などの売上増加により前年同期比260.4%となっています。

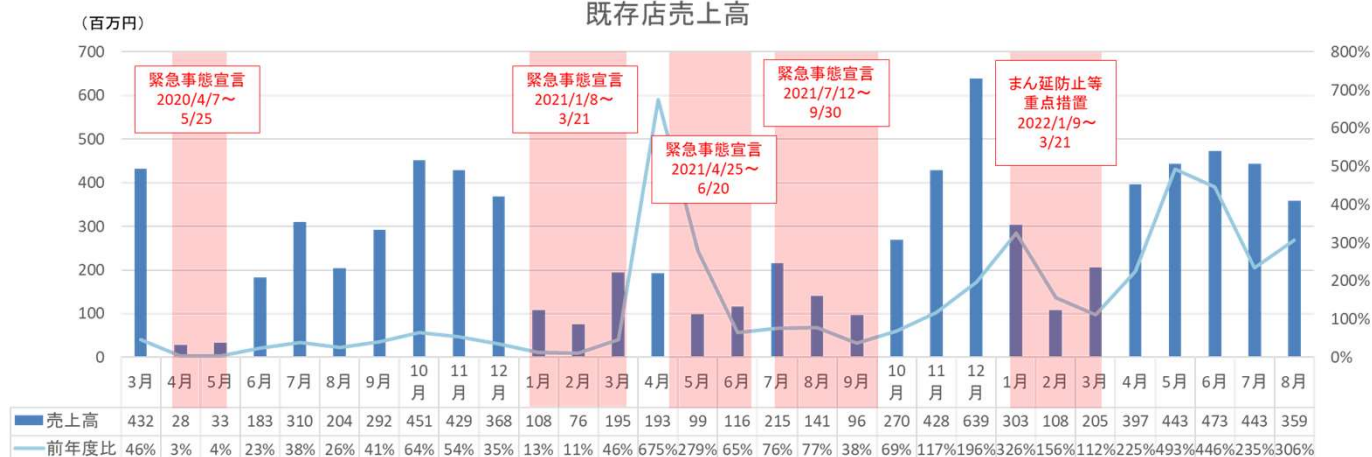


# 店舗の営業状況



	2021年							2022年							
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
総店舗数(FC除く)	126	127	126	123	122	121	121	121	122	121	119	119	117	117	113
通常営業店舗数	8	11	1	1	99	108	112	7	7	107	108	111	109	109	108
(通常営業店舗/総店舗)	6.3%	8.6%	0.7%	0.8%	81.1%	89.2%	92.6%	5.8%	5.7%	88.4%	90.7%	93.2%	93.1%	93.1%	95.5%
営業短縮店舗数	68	68	32	32	3	2	0	49	35	0	0	0	0	0	0
休業店舗数	50	48	93	90	20	11	9	65	80	14	11	8	8	8	5

既存店売上高



※既存店基準：開店日より24ヶ月を経過した店舗を対象としております。  
※時短・休業店舗も含む

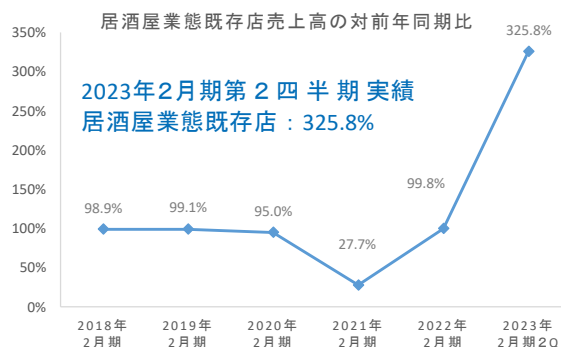
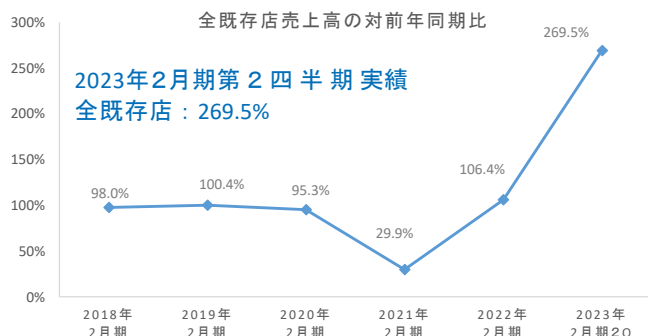
2022年2月期第2四半期は、緊急事態宣言等により、通常営業ができない店舗が多かった。

2023年2月期第2四半期は2022年3月21日にまん延防止等重点措置が解除された以降は通常営業に徐々に戻ってきております。

7月より新型コロナの感染者が増加しましたが、店舗は通常営業を続けております。

2022年8月末時点で、95.5%の店舗が通常営業を実施しております。

# 既存店収益状況

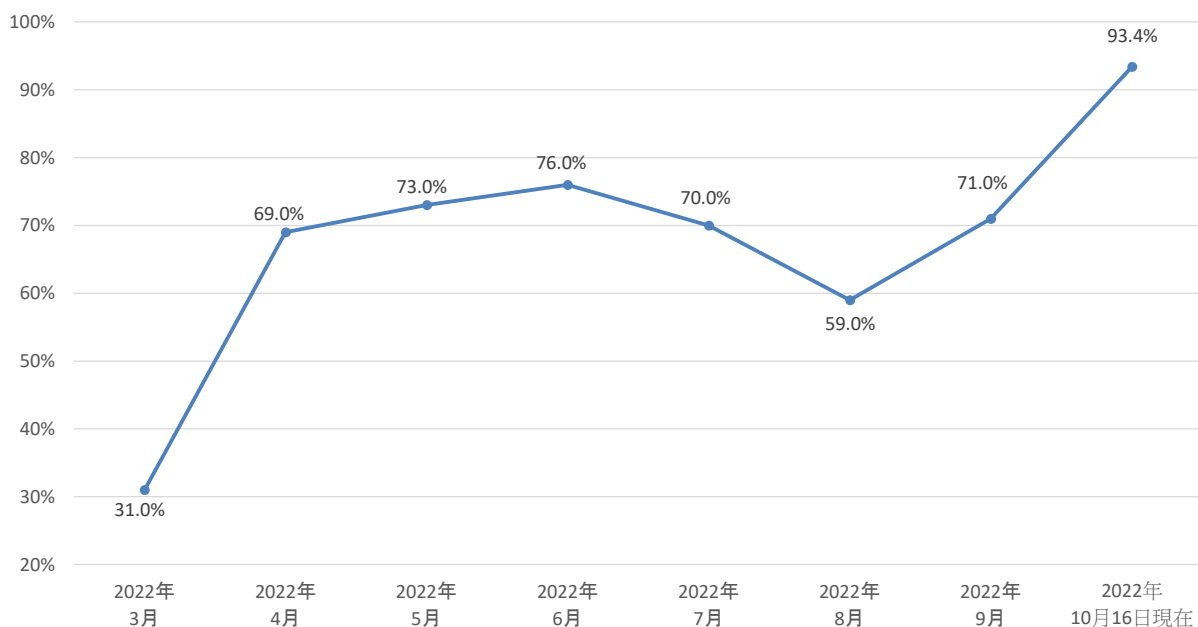


		2021年				2022年		2022年2月期 実績	2022年						2023年2月期 第2四半期 実績
		9月	10月	11月	12月	1月	2月		3月	4月	5月	6月	7月	8月	
居酒屋業態	売上高前年同月比	23.4%	62.7%	119.6%	215.8%	444.2%	194.7%	99.8%	107.3%	261.3%	752.3%	633.5%	276.0%	372.9%	<b>325.8%</b>
	来店客数前年同月比	51.5%	77.4%	134.6%	235.9%	396.8%	177.6%	121.2%	106.5%	216.2%	410.7%	365.6%	198.5%	239.1%	<b>236.3%</b>
	客単価前年同月比	45.4%	80.9%	88.9%	91.5%	111.9%	109.6%	82.4%	100.7%	120.8%	183.2%	173.3%	139.0%	155.9%	<b>137.9%</b>
レストラン業態	売上高前年同月比	106.1%	107.0%	111.4%	133.3%	206.2%	154.3%	140.1%	180.1%	171.0%	281.3%	247.5%	183.6%	260.3%	<b>215.2%</b>
	来店客数前年同月比	103.5%	99.0%	101.9%	119.8%	179.0%	143.3%	131.3%	140.1%	153.0%	230.6%	188.1%	150.6%	173.5%	<b>168.8%</b>
	客単価前年同月比	102.5%	108.1%	109.3%	111.3%	115.2%	107.6%	106.7%	128.5%	111.7%	122.0%	131.6%	121.9%	150.0%	<b>127.5%</b>
カフェ業態	売上高前年同月比	54.7%	67.9%	87.2%	125.6%	118.2%	79.7%	104.6%	76.6%	94.6%	137.7%	113.9%	104.0%	123.0%	<b>105.5%</b>
	来店客数前年同月比	54.7%	67.3%	91.3%	128.8%	123.1%	90.0%	108.3%	81.0%	96.7%	145.2%	127.2%	104.1%	129.4%	<b>110.6%</b>
	客単価前年同月比	100.1%	101.0%	95.4%	97.6%	96.0%	88.6%	96.6%	94.6%	97.8%	94.9%	89.6%	99.9%	95.1%	<b>95.4%</b>

※既存店基準：開店日より24ヶ月を経過した店舗を対象としております。

9ページの「店舗の営業状況」のとおり、2022年2月期第2四半期は、緊急事態宣言等により、通常営業ができない店舗が多かったが、2023年2月期第2四半期は2022年3月21日にまん延防止等重点措置が解除された以降は通常営業に徐々に戻ってきており、前年同期比は、急激に回復しています。既存店前年同期比で269.5%となっております。居酒屋業態では、前年同期比325.8%となっております。

## 既存店コロナ前比



居酒屋業態が主な業態のため、第7波等の影響を受け、上半期はコロナ前比が伸び悩んだ  
第7波が終息した、9月後半より、大きく回復しており、10月16日現在、「93.4%」となっている

居酒屋業態が主な業態のため、まん延防止措置等重点措置が3月21日に解除になった以降徐々に回復傾向にありましたが、7月からの第7波の影響を大きく受け、7月、8月は大きくコロナ前比を割り込みました。9月後半になり、第7波の影響も少なくなり、10月16日現在では、コロナ前比93.4%まで回復しています。

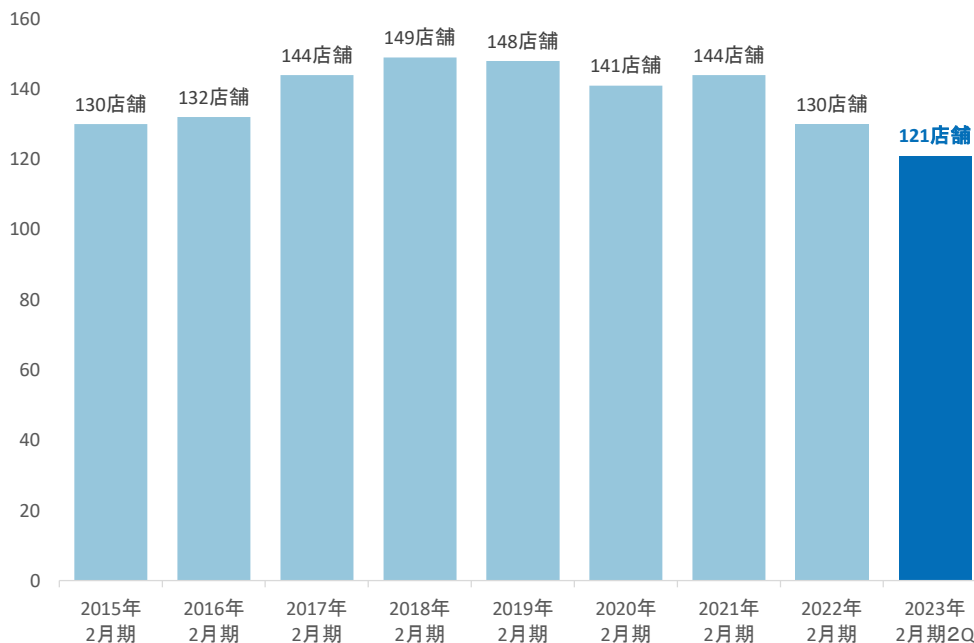
## 店舗数の推移



2023年2月期第2四半期時点で

新規出店1店舗・業態転換2店舗・閉店10店舗となり

69業態、121店舗体制となる



12

新規出店は1店舗出店しております。（大阪王将 池下店）  
業態転換は、2店舗となります。

（寿司と串とわたくし 三条大橋店、きばくもん 静岡店）  
閉店は、契約期間満了、不採算店舗等 10店舗になります。

第2四半期終了時点では、69業態、121店舗の運営となっております。



寿司と串とわたくし 名古屋栄店

## 2. トピックス



## コロナ禍に取り組んできたポートフォリオの変更方針

大型店舗→小型店舗	都心店舗→郊外店舗	総合業態→専門業態
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 脱大宴会依存</li> <li>✓ 友人・家族ら少人数での利用</li> <li>✓ 投資効率の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 住宅街での日常使い需要に対応</li> <li>✓ 繁華街より安価な家賃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 脱総合居酒屋</li> <li>✓ 脱酒類業態</li> <li>✓ 目的来店促進</li> </ul>

## アフターコロナに対応するため戦略的に新店・リニューアル・閉店を実施

	2021年2月期	2022年2月期	コロナ禍合計	2023年2月期 第2四半期	合計 (コロナ禍合計+第2四半期)
出店	16店	8店	24店	1店	25店
業態転換	9店	12店	21店	2店	23店
閉店	14店	21店	35店	10店	45店

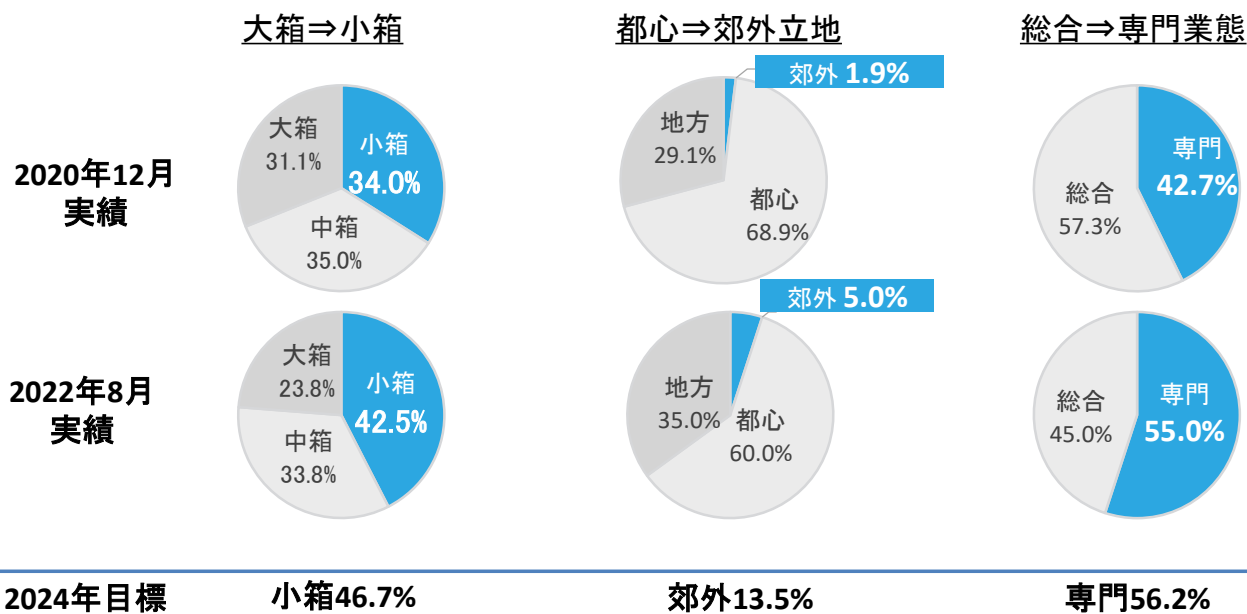
コロナ禍に入って、出店:25店舗、業態転換:23店舗、閉店:45店舗を実施し、ポートフォリオの改善を実施してきました。

アフターコロナに向けたポートフォリオの変更方針として掲げていた、大型店舗→小型店舗、都心店舗→郊外店舗、総合業態→専門業態にポートフォリオの転換を行い、大型総合居酒屋、大宴会中心、都心エリア中心の店舗展開から脱却して、専門業態の少人数顧客を中心とした店舗へのポートフォリオの構築を目指してきました。

これまでに、出店25店舗、業態転換23店舗、閉店45店舗を実施して、アフターコロナに向けた店舗ポートフォリオの変更を進めてまいりました。



ポートフォリオの見直しを継続して行い、収益性改善を今後も進めていく



コロナ禍になって掲げた店舗ポートフォリオの改善計画に対して、予定通り進んでいる。

※60坪以上は大箱、40～60坪は中箱、40坪未満は小箱とした。都心は東京都/名古屋市の商業地域、郊外は左記の住宅立地、地方はその他(主に地方都市)と定義。  
 郊外の例: 名古屋市 地下鉄東山線沿線(池下～藤が丘)、大曽根等、東京都 JR中央線沿線(中野、吉祥寺)、武蔵小杉、町田等

2024年までに達成すべき数値を決めて、取り組んできましたが、約2年経過し、2022年8月末時点での進捗では、小箱、専門業態への転換は順調に進んでいます。ただ郊外立地に関しては、新規出店を積極的に展開していなかったため、進捗が遅れていましたが、大阪王将のFC展開を始め徐々に郊外立地への出店を進めてきました。

更に、2022年10月4日に、名古屋の藤が丘に新たに2店舗（大阪王将 藤が丘店、寿司と天ぷらとわたくし 藤が丘店）を出店しました。これにより、8月末時点で5.0%だった、郊外エリアへの出店比率が、7.3%まで増加します。今後も出店場所を精査しながら出店を展開していく予定でございます。

全店舗とも業績好調、今後も「寿司居酒屋」業態を積極的に展開

寿司と串とわたくし

SUSHI TO KUSHI TO WATAKUSHI

寿司と天ぷらとわたくし

SUSHI TO TEMPURA TO WATAKUSHI

- 現在4店舗を展開中
- リニューアル店舗、新規出店ともに好調
- 「都市型」「郊外型」の2スタイルを展開予定



オープン日	店舗名	形式
2020年12月10日	寿司と串とわたくし (名古屋栄)	リニューアル
2021年4月20日	寿司と天ぷらとわたくし (京都烏丸)	リニューアル
2022年9月5日	寿司と串とわたくし (京都三条大橋)	リニューアル
2022年10月4日	寿司と天ぷらとわたくし (名古屋藤が丘)	新規出店



リニューアル後、業績が好調な業態をご紹介します。  
2020年12月に「寿司と串とわたくし」、2021年4月に「寿司と天ぷらとわたくし」の2店舗をリニューアルオープンし、両店とも1年が経過し、コロナ前を大きく超える業績を出しています。

「寿司と串とわたくし 名古屋栄店」の上半期累計コロナ前比193.3%、「寿司と天ぷらとわたくし 京都烏丸店」は上半期累計コロナ前比176.9%と、3月のまん延防止期間や、7月からの第7波がありながらも好調を維持しています。

新しく、9月5日に「寿司と串とわたくし 京都三条大橋店」をリニューアルオープンしました。

10月4日に「寿司と天ぷらとわたくし 藤が丘店」は新たに郊外エリアに出店をしました。今後状況を見ながら、都心、郊外、地方と積極的に展開していきたいと考えております。

## ブランド力のある食事業態のFCビジネスを今後も展開していく

- ✓ 住宅地・郊外を中心に今後展開
- ✓ 大阪王将FC3号店を3月、4号店を10月にオープン
- ✓ 昔の矢場とんFC2号店を10月にオープン



### 2店舗

アスナル金山店  
2021年6月4日オープン  
錦三丁目店  
2022年10月14日オープン



### 4店舗

黒川店  
2021年8月31日オープン  
大津SA店  
2021年11月1日オープン  
池下店  
2022年3月14日オープン  
藤が丘店  
2022年10月4日オープン



合計6店舗を運営中

前期より展開しております、FC展開ですが、「昔の矢場とん アスナル金山店」が好調なことから、2022年10月14日に「昔の矢場とん 錦三丁目店」をリニューアルオープンし、現在2店舗を展開しております。

大阪王将のFC展開につきましては、3号店となる、「池下店」が2022年3月14日にオープンいたしました。2022年10月4日には「藤が丘店」をオープンし、現在4店舗を展開しております。

ブランドのFC展開につきましては、現在、6店舗を展開しております。



## 高速道路をはじめとしたコントラクト事業を今後も展開

✓ 名神高速道路下り線大津SAの一括運営



年月	概要
2021年10月1日	事業運営開始
2021年10月後半	テイクアウトコーナー
2021年11月後半	ドライバーズコーナーオープン
2022年2月後半	物販コーナーリニューアル
2022年3月12日	グランドオープン

2022年3月12日より全館のリニューアルが完了し本格運営を開始

## Kuradashi

2022年9月14日より株式会社クラダシ様と提携し、サービスエリアとして初めて「Kuradashi」のオフラインストアを展開し、フードロス削減に取り組みます。



※株式会社クラダシは、フードロス削減を目指し、賞味期限が切迫した食品や季節商品、パッケージの汚れやキズ・自然災害による被害などが要因で、消費可能でありながら通常の流通ルートでの販売が困難な商品を買取り、ソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」で販売しています。また、その売上の一部を社会貢献活動団体に寄付しています。

高速道路のSA事業は、2021年10月より運営をスタートしております。「名神高速道路下り線大津SA」になりますが、スタート以降順次各エリアのリニューアルを進めており、2022年3月12日にグランドオープンいたしました。

当社にとっては、物販やドライバーズコーナーの運営など、新しい挑戦となっておりますが、順調に運営ができております。今後も、大津SAの安定運営を継続するとともに、新たなコントラクト案件についても積極的に進めていく方針です。

大津SA内で新たに始めた取り組みとして、2022年9月14日より、株式会社クラダシ様と連携し、サービスエリアで初となる

「Kuradashi」のオフラインストアを展開しております。SAとしての新たな価値創造の活動として、また、「フードロス削減」という、社会問題の解決へ向けての活動を今後も進めてまいります。

### ●同業他社との共同購入

株式会社DDホールディングスの非連結子会社である、株式会社DDプラスの展開する「共同購買プラットフォーム」に、東海エリアの店舗につきましては、10月1日より参加しました。

関東エリアの店舗については既に8月1日よりスタートしています。

まずは、野菜を中心に、関東エリアでは40品目の取引を行っており、東海エリアにおいては、15品目からスタートをしております。

このプラットフォームに参加することにより、まずは、共同購入によるスケールメリットの享受を受ける事が出来るようになりますが、将来的には、共同でのPB商品の開発や、自社商品を共同プラットフォーム内で販売できるような展開を考えております。



### ●一括物流によるコスト抑制

以前より取り組んでおります、①「個店仕入」→「本社一括仕入」、②「複数業者物流」→「本社一括物流」の改革を推進することにより、食材、商材の絞り込みとコスト抑制を行っております。

株式会社DDプラス様が展開している「共同購買プラットフォーム」に10月1日より東海エリアの店舗が参加いたしました。（関東エリアは8月1日より既に参加しています。）

全国に340店舗を展開する株式会社DDホールディングス様と共同購入をする事で、原価高騰の抑制を見込んでおります。

また、ゆくゆくは、共同でのPB商品の開発や、自社商品をこのプラットフォーム内で販売していく事を考えております。

また、継続的に取り組んでおります2点の改革により原価コストの抑制を行っております。

- ①「個店仕入」→「本社一括仕入」
- ②「複数業者物流」→「本社一括物流」

## 保有する商業ビル・レジデンスを流動化及び有効活用を進める

### 保有不動産



J-Group 本社・新九



ジェイテル名駅



EXIT NISHIKI



JG金山



ジュール則武

年月	売買	不動産
2019年2月	売却	J-Growth 大曾根
2020年1月	売却	G-SEVENS 刈谷
2020年7月	売却	ダイヤモンドウェイ
2020年7月	売却	物流センター
2020年7月	売却	ジュール広川
2021年4月	取得	J-Group本社ビル
2021年9月	売却	ジュール亀島

### 海外店舗の撤退

2022年2月に連結子会社であるNEWFIELD HONOLULU,INC(ハワイ)を売却  
海外展開しているNEW FIELD NEW YORK,LLC.(ニューヨーク)・KAKEHASHI S.L.U.(バルセロナ)の2店舗に  
についても同様に撤退の方針

20

現在保有している、5つの物件についても、流動化および有効活用を進める方針です。

海外店舗につきましても、当初の計画通り、撤退の方針に変更はなく、タイミングを見ながら進めていきます。



## 今期の業績見通し



	(百万円)			
	2022年2月期 通期実績		2023年2月期 業績予想	前年同期比 (%)
売上高	4,703		10,442	222.0%
営業利益又は営業損失(△)	△1,888		107	—
経常利益又は経常損失(△)	△1,900		28	—
親会社株主に帰属する当期純利益または当期純損失(△)	△602		8	—
配当金 ※	中間 期末	無配 無配	中間 期末	無配 未定

※2023年2月期の配当につきましては、新型コロナウイルスの影響が現時点では先が見えず、合理的な配当予想の判断が困難なことから、現時点におきましては未定とします。

## 株主優待制度について

株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに、より多くの皆様に事業への一層のご理解をいただくことを目的とし、**株主優待制度は引き続き実施いたします。**

所有株式数	贈呈内容
100株以上200株未満	株主優待御食事券2,000円分(1,000円券×2枚)を年2回
200株以上600株未満	株主優待御食事券4,000円分(1,000円券×4枚)を年2回
600株以上1,000株未満	株主優待御食事券8,000円分(1,000円券×8枚)を年2回
1,000株以上	株主優待御食事券12,000円分(1,000円券×12枚)を年2回

### 代替商品のご案内

- > 4,000円コース  
 猿Cafeブレンド  
 カタログギフトA
- > 8,000円コース  
 黒豚さつまセット  
 本場さつまあげ大盛セット  
 カタログギフトB
- > 12,000円コース  
 黒豚さつま豪華セット  
 カタログギフトC



### 【利用可能店舗の増加】 2022年5月25日より

大津SA、博多かわ屋(直営店)、EXIT NISHIKI(直営店舗)、Private Sauna EXIT、紅白昔の矢場とんアスナル金山店

株主優待制度に関しては、今後も継続させていただきます。2022年5月25日より、利用可能店舗を増やしております。それまで利用できなかった店舗がいくつかございましたが、海外の店舗、会員制の店舗を除く全ての直営店舗での利用が可能とさせていただきます。

## 創業25周年記念株主優待の実施及び利用制限の撤廃について



当社は、2022年3月に創業25周年を迎えました。これもひとえに当社をご支援いただいている株主の皆様のおかげによるものと、心より感謝申し上げます。つきましては、記念株主優待として御食事券を保有株式数に応じ追加進呈させていただいております。

対象となる株主様	贈呈時期
2022年2月28日を基準とする当社の株主名簿に記載又は記録された当社株式100株(1単元)以上を保有の株主様	2022年5月下旬発送 通常分株主優待券に同封
2022年8月31日を基準とする当社の株主名簿に記載又は記録された当社株式100株(1単元)以上を保有の株主様	2022年10月下旬発送 通常分株主優待券に同封

所有株式数	追加贈呈内容
100株以上600株未満	株主優待御食事券1,000円分を年2回
600株以上1,000株未満	株主優待御食事券2,000円分を年2回
1,000株以上	株主優待御食事券3,000円分を年2回



### 【利用制限の撤廃】 2022年10月7日より

今まで、「金曜日ディナー」「12月ディナー」につきましては、株主優待御食事券のご利用ができませんでしたが、今後は利用制限を撤廃し、いつでも利用可能とさせていただきます。

2022年3月に、創業25周年を迎える事ができました。これもひとえに当社をご支援いただいている株主の皆様によるものと、心より感謝申し上げます。

つきまして、記念株主優待として御食事券を保有株式数に応じ追加進呈させていただいております。

年2回を予定しております、1回目に関しましては、既に2022年5月下旬に配送させていただいております。

今期は、もう1回、2022年8月31日を基準とする当社株式を100株以上保有の株主様に2022年10月下旬に追加贈呈を予定しております。

また、ご利用できる時間帯ですが、今までは、金曜日のディナーと、12月のディナーに関しましては、ご利用がいただけませんでした。2022年10月7日より、利用制限を撤廃し、店舗の営業時間内であれば、いつでもご利用可能とさせていただきます。

10月31日(月) 11月1日(火) 2日間限定

焼酎がもっと好きになる日

何杯飲んでも無料

通常一杯350円の本格焼酎が  
全国の芋蔵で50蔵元約60種類

11月1日は  
本格焼酎と  
泡盛の日



The advertisement features a row of five sake bottles in the foreground. From left to right, the bottles are: a dark bottle with a white label, a bottle with a yellow label, a bottle with a black label and gold characters, a bottle with a white label and black characters, and a bottle with a white label and blue characters. The background shows a scenic view of a lake and mountains under a blue sky. The text is overlaid on the image in various colors and fonts, including large red characters for '無料' (free) and '何杯飲んでも' (no matter how many cups you drink).

【IRに関するお問い合わせ先】  
株式会社ジェイグループホールディングス  
管理本部 IR担当  
TEL : 052-243-0026

当資料は株式会社ジェイグループホールディングスが作成したものであり内容に関する一切の権利は当社に帰属しています。  
複写及び無断転載はご遠慮下さい。当資料は当社が現在発行している、また将来発行する株式や  
債券等の保有を推奨することを目的に作成したものではありません。  
また、当資料は当社が信頼できると判断した情報を参考に作成していますが当社がその正確性を保証するものではなく、  
事業計画数値に関しても今後変更される可能性があることをご了解下さい。